

1 スクールミッション・ポリシー				
芸術文化に親しむ機会や産業界との交流、文化祭や卒業制作展などの特色ある教育活動を通じて、専門的知識や技術を生かし、企業において即戦力として活躍し、大学等への進学に対応する確かな学力を身に付けた個性豊かな「スペシャリスト」を育成する。				
① グラデュエーション・ポリシー	② カリキュラム・ポリシー	③ アドミッション・ポリシー		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団社会の一員としての自覚や社会生活の基本ルールなどを理解させ、他者の生命や人権を大切に「豊かな心」を育成する。 ・ ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等の集団活動を通して、自主的・実践的な態度、自他を尊重する態度や協調性を育成する。 ・ 生徒が社会で主体的に貢献できる「生きる力」を育てるため、問題解決能力や自発的・創造的・共同的に取り組む態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領の実施、大学入試制度の改革、ICT機器を活用した教育環境の充実、都立工業高校改革など、学校教育を取り巻く制度や環境の変化を踏まえ、次の観点から教育課程の編成を行う。 ・ 生徒の特性・進路に応じて授業内容の改善や指導法を工夫し、生徒一人ひとりの個性や能力の伸長を図る。 ・ 生徒に将来の職業について考える機会を与え、進路希望に応じた進路選択・自己実現ができるよう進路指導の充実を図る。 ・ 特別支援コーディネーターやスクールカウンセラー、養護教諭、学年等と連携して特別支援教育の推進及び充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 110余年の伝統と「誠実・元気・親愛・規律」の校訓のもと、工芸・デザインの専門性を高め、自らの道を切り開き、逞しく積極的に取り組む意欲のある生徒を求める。 ・ 自分の将来の進路についてよく考え、本校での学習をそれに生かそうと努力する生徒 ・ 教科の学習や総合的な探究の時間、委員会活動や部活動、ボランティア活動、各種コンクール等において、自ら目的意識をもって積極的に取り組む生徒 ・ 創作意欲が高く、次の事柄に興味・関心をもち、熱心に取り組もうと努力する生徒 		
2 中期的目標		3 (1) 今年度の教育目標と方策	3 (2) 重点目標と方策	
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> (1) 大学入試制度の改革、教職員の働き方改革の推進、TOKYOスマート・スクール・プロジェクトを活用した教育環境の充実や校務処理の効率化など、学校教育を取り巻く制度や環境の変化を踏まえた判断力と機動力をもった学校組織を構築する。 (2) 「Next Kogyo START Project」を推進し次世代の工業教育を実現する。 (3) 経営企画室は、予算・契約・施設・サービス・学事など行政管理の側面から学校経営を捉え、企画提案型の組織へと改編を図る。 (4) あらゆる服務事故を根絶する。 	<p>本校のグランドデザインに基づき、下記の取組を分掌や委員会等に位置づけ実効性の高い組織を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新学習指導要領における理念や方向性等に基づいた教育課程の具体化を図る。 ② 企画調整会議による校内運営組織の充実を図り、分掌等の機動性と課題解決力を高める。 ③ 主幹教諭は、担当分掌組織をまとめるだけでなく、主幹教諭同士が連携し、補完し合いながら主体的に学校経営に参画し、学校運営を補佐する。 ④ 自立経営予算の効率的な執行と効果的な運用を定期的な確認作業を通じて管理し、予算の効果的な執行に努める。 ⑤ 文書等管理の徹底を図り、校内における文書及び個人情報等に関する事故防止に努める。 ⑥ 統合型校務支援システム導入に伴い、業務の効率化と生徒状況等の一元化を図る。 ⑦ 一人1台端末の導入に伴い、校内の情報活用環境の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇入試応募倍率の確保 本校の教育活動や生徒の活動状況、工芸・デザインに関する体験活動等を通じ、本校に興味・関心をもつ中学生やその保護者等へ適切な情報を伝え、正しい理解に基づく選択として本校を受験する生徒の確保を図る。 【数値目標】推薦入試応募倍率3.5倍以上、一般入試応募倍率1.6倍以上 ◇会議等におけるペーパーレス化を実現し、個人情報等の紛失・流失事故の未然防止に努める。 【数値目標】研修及び適時適切な指導を通して、教職員の服務事故の発生を防止する。 複数人、複数回の点検を実施し、個人情報の紛失や流失等の事故発生を0とする。 	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の能動的な学びを実現し、生涯にわたり自己の目標達成にむけ努力する姿勢とその基盤となる学力を育成する。 (2) オンラインの対応も含め、デジタル化推進等の新たな学習形態を活用した学習指導を検討し、工芸の学びのスタイルを構築する。 (3) 大学進学に必要な学力等を的確に把握し、データに基づいた組織的な指導体制を構築する。 (4) 工業高校校改革の実施に伴い、専門学科教育の活性化、PBL、海外派遣、外部人材活用等の事業を推進する。 (5) 日本の伝統・文化についての生徒たちの理解を深め、日本の良さを発信する能力や多様性を尊重できる資質を育成する。 	<p>学科や教科ごとに指導内容を明確にするとともに、「主体的・対話的で深い学び」について共通理解の形成を図り、教員一人一人が授業改善に努める。また、オンライン学習に関する活用方法について理解を深め、積極的な活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の個性や能力を伸長する授業を目指し、生徒による授業評価・校内研修や学力スタンダードを通して授業改善・学力の向上、心身の健全のため体力の向上、少人数指導を実施する。 ② 国語、数学、外国語、理科、地理歴史、公民の6教科では、大学進学志望者の増加に対し、他校の指導教諭の授業参観等を推進し、授業改善を図るとともに放課後や長期休業中に補習授業を実施する。 ③ 専門学科では、ものづくりの新たな局面に向き合い、社会からの期待に応える教育活動を展開するとともに、学習指導要領に沿った技術・知識を習得させ、個性豊かな創造力・表現力・感性をもつ工業・工芸・デザインに関する「スペシャリスト」を育てる。 ④ 東京都教育委員会より「ものづくり人材育成のための教育プログラム」の特定分野推進校の認定を受け、伝統工芸を主に高度で発展的・実践的な知識・技術を学び、伝統技術を継承しながら日本の「ものづくり」を支える人材を育成する。 ⑤ 自ら学び考えたことを発表する機会や、調べもの学習で学校図書館を有効利用するなど、言語活動の充実や読書活動の推進を図る。 ⑥ 「観点別評価」の導入の趣旨を踏まえ、適切な評価の運用を通して、生徒の能動的な学習を促進する。 ⑦ 一人1台端末やTeamsの活用等のIT教材を積極的に利用し、「主体的・対話的で深い学び」に関する理解を深め、授業公開などを通してノウハウの共有を図り、デジタル教育の充実を図る。 ⑧ 通級指導に関する組織体制を整備し、ケース会議等を定期的に開催し、適正な実施に努める。 ⑨ 学習障害について理解を深め、生徒の特性や状況に応じた合理的配慮を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇進学対策講座の充実と各種資格取得及び競技会への積極的な参加 生徒の自己実現を支援するための平日の補習・補講や長期休業中の進学対策講座、検定・資格取得講座を開講し学びの場を提供する。また、各種競技会・コンクールへの参加を促し、専門分野に関する興味・関心をもたせ、専門性の向上を図る。 【数値目標】長期休業中の各種講座20講座以上、検定・資格取得延べ件数450件以上 各種競技会・コンクール等での入選・入賞件数80件以上 ※ 上記数値目標は、今年度の実施状況により修正することがある。 ◇社会からの期待に応える専門学科高校を目指す 工業高校改革に伴い、都立デザイン系中核的専門高校としてリーダーシップを発揮するとともに、他の工業高校と連携し、専門学科教育の充実や広報活動の活性化、魅力の発信を図る。 【数値目標】IT及びPBL外部人材の活用10件以上、設備拠点校実習実施3回以上 都立工業高校PRワークショップ・わくどき工作スタジオ・工業科生徒研究発表大会等の参加 ◇ものづくり人材育成のための教育プログラムの実施 ものづくりへの興味・関心を高め、キャリア意識を培うため、熟練技術者による講演・実演やものづくり企業への現場訪問、基礎的な製作体験等を実施する 【数値目標】講演会等の実施3時間、講師による授業の実施170時間、教員対象研修6時間 ものづくり立志講座6時間実施 	
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、生徒の発達に即して組織的な生活指導を推進する。 (2) 学校と家庭との信頼関係を構築し、双方において生徒の様子の把握に努め、教育力の向上を図る。 (3) 多様な生活指導上の課題について関係機関とも情報を共有し、組織的に連携して対応する。 (4) 	<p>自主的・実践的な態度や自他を尊重する態度、協調性を育てるとともに、学び合う環境づくり、人権教育、道徳教育を充実させ、豊かな心を育む。また、課題や悩みを抱えた生徒に対して相談体制を充実させ、家庭との連携の中で生徒の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自主・自律に基づく基本的生活習慣、集団社会の一員としての自覚、時間を守る意識の育成など、社会生活意識の基本的ルール・マナー、規範意識を育てる。 ② 教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図り、奉仕活動や人権教育プログラム等を活用して他者生命や人権を尊重する「豊かな心」を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇家庭との連携と生活指導体制の充実 複雑化する生徒の社会的・家庭的・経済的状況を踏まえ、学習状況や出席状況について気になる様子が見られる場合は、学校での学習・生活状況等を家庭に密に連絡するとともに、適切な生徒理解と、家庭及び生徒支援に努め、外部の関係機関と連携し課題解決を図る。 【数値目標】各学期で生徒の実態に応じて教育相談若しくは個人面談、三者面談等を実施する。 都立高校版コンディションレポートを導入し、適切に運用する。 	

	<p>「いじめは絶対に許されない」という意識を生徒に徹底させるとともに、いじめの未然防止と早期発見に努める。</p>	<p>③ 交通安全教育・薬物乱用防止教育などを通して命や心身の健康に対する態度を育てると共に、避難訓練や防災教育を充実させるため、自校の「消防計画」を活用した地域連携の防災訓練を実施する。</p> <p>④ いじめや生命にかかわる事故防止等の早期対応のため、生徒との対話や行動に注視すると共に、年3回以上のいじめを把握するためのアンケートを実施し、その内容を教職員間で共有し、いじめ防止、生命にかかわる事故防止対策に資する教育の推進を図る。</p> <p>⑤ 友達の作り方などの人間関係や社会的なかわり方について適切なコミュニケーションの習得を図る。</p>	<p>◇防災教育と避難訓練の充実 地域との連携を強化した防災教育の在り方を検討し、従来の防災教育に加え、避難所設営及び運営訓練、初期消火訓練などの実施に向けた取り組みを行う。 【数値目標】地域と連携した防災講話及び防災訓練、校内避難訓練等の実施4回以上</p> <p>◇いじめや生命にかかわる事故防止等の組織体制の充実 いじめ対策委員会及び各種委員会を開催し、生徒理解と情報共有を充実させ、関係各所との連携を密にする。さらにスクールカウンセラーや外部教育相談機関(指導主事、心理職、スクールサポーター、シニアスクールカウンセラー等)との連携を図り、事故の未然防止及び早期発見を目指す。 【数値目標】いじめ対策委員会及び校内研修 年3回以上実施 いじめ実態調査アンケート 年3回以上実施</p>
<p>進路指導</p>	<p>(1) 生徒の興味・能力・価値観、その他の特性をもとに、個人にとって望ましいキャリアの選択・開発を支援するキャリア形成の専門性を有する指導体制を構築する。</p> <p>(2) 大学入学共通テストの適切な情報を踏まえ、校内の指導体制を構築し、より高い希望進路実現率を目指す。</p>	<p>キャリア教育に関する専門性を高める取組を実施するとともに、専門学科ごとの特性を踏まえたキャリア教育の全体計画の見直しを行う。その上で、進路の未決定者をゼロにする。</p> <p>① 自校の「進路の手引き」やキャリアパスポートを活用し、就職・進学など進路に関する資料や進路相談の充実を図り、三年間を見通した長期的・計画的なキャリア教育を推進する。</p> <p>② 企業開拓を推進し、専門学科の教育内容に沿ったインターンシップや企業見学などにより勤労観・職業観を育むとともに、興味・関心に応じた進路選択ができるよう組織的に取り組む。</p> <p>③ 外部学力テストの実施や大学入学共通テストの情報分析を行い、大学進学志望者に対する教育活動の充実を図るとともに、様々な推薦試験に対応できる総合的な学力の向上を図る。</p> <p>④ 政治的教養を育み主権者教育の充実を図り、自立的社会人としての素養を身に付けさせる取り組みを推進する。</p> <p>⑤ 日常の教育活動を通して生徒の特性を発見し、個々の能力や適性に応じた指導を行う。</p>	<p>◇4年生大学の現役合格率の向上 自己の興味や関心、価値観や特性を見据え、個人にとって望ましいキャリア選択を通して、生徒に対し、学習到達度の明示と確かな目標をもたせ、進路実現に向けた学習の機会を提供することで、現役合格率の維持向上を図る。 【数値目標】4年生大学現役合格率90%以上</p> <p>◇進路未決定者の解消 個人にとって望ましいキャリア選択ができるようキャリアパスポートを活用し、丁寧な指導を展開するとともに、職業観・就労観もたせ、自己実現を図る。 【数値目標】就職内定率100%、進路未決定者数0人</p>
<p>学校生活環境づくり</p>	<p>(1) 情報機器を活用した本人及び家庭との連絡体制について検討し、日常の連絡から緊急時の対応まで可能な体制を構築する。</p> <p>(2) 生徒及び教職員の心身の健康状態を的確に把握し、健康で意欲をもって過ごすことのできる環境と制度を整える。</p> <p>(3) 「TOKYO ACTIVEPLAN for students」を踏まえ、生徒の体力向上を図る。</p>	<p>緊急事態に備えた学校と生徒・保護者の連絡体制及び安全安心な校内環境の整備を図る。</p> <p>① 学校HPや学習支援クラウドサービスによる情報伝達の信頼性を高める。</p> <p>② 校内の相談機能を有効に活用するため、保健厚生部による広報機能の充実を図る。</p> <p>③ 生徒に関する課題について、個人ではなく組織で対応し、より効果的な指導を展開する。</p> <p>④ あらゆる教育活動を通して、運動・スポーツへの興味・関心を高め、運動・スポーツに勤しむ態度を培う。</p> <p>⑤ メンタルヘルス講習会への参加や、ストレスチェックなどを活用し、教職員の健康状態への関心を高めるとともに、ライフ・ワーク・バランスの充実を図るため、職場環境改善を促進する。</p>	<p>◇生徒満足度の向上 生徒による授業評価や、生徒及び保護者、学校運営連絡協議会の学校評価アンケートの結果を基に、授業改善や分掌活動の見直し、各種行事の活性化等の生徒満足度の向上を目指す。 【数値目標】授業満足度80%以上、進路指導満足度80%以上、学校生活満足度80%以上 生活指導の満足度70%以上、特別活動等の満足度80%以上、学校生活の満足度80%</p> <p>◇学習環境の改善と指導体制の適正化 生徒及び保護者の意見を取り入れ、相談体制の充実を図り、学校生活の改善を図る。また、体罰や不適切な言動等未然防止に努め、指導体制の適正化を図る。 【数値目標】校内研修及び体罰実態調査アンケートを実施し、教職員の服務事故の発生を防止する。</p>
<p>特別活動</p>	<p>(1) 工芸祭や体育祭、卒展といった本校の特色を踏まえた特別活動を軸に、HR活動、生徒会活動等の充実を図り、集団社会の一員として望ましい価値観や人間関係を形成する能力などを培う。</p>	<p>アフターコロナ状況を踏まえ、特別活動においては時代を超えて受け継いできた文化を継承するための取り組みを実施し、今後の充実につなげる。</p> <p>① アフターコロナの状況を踏まえ、適切な特別活動の在り方を検討し実施計画を作成する。</p> <p>② 工芸高校の伝統を踏まえた学校行事を実現し、生徒の自発的・創造的・行動的に取り組む態度を育てる。</p> <p>③ 地域連携を再検討し、地域と直接的な体験を通して、豊かな人間性や社会性を育み、生徒のよりよい人格の形成に取り組む</p> <p>④ 生徒が、社会の状況を踏まえ、社会の一員としての自覚と責任について考え、問題解決能力を育む。</p>	<p>◇社会で主体的に貢献できる「生きる力」の育成 地域社会と連携し、共同事業、青少年事業、地域行事等への生徒の積極的な参加を図る。また、生徒会を中核として、自主・自律の心を育成できるよう様々な活動の場で支援する。 【数値目標】連携・協働の実態に応じて、文京区役所や文京区警察署・消防署、社会教育施設、教育NPO、文化団体、福祉関係機関等と連携を図る。</p>
<p>広報活動 地域連携</p>	<p>(1) ICT機器の進歩やSNSの普及が及ぼす社会生活の変化を見据え、新たな広報手段や内容を検討し、工芸高校に対する都民の理解をより一層深めるため、広報活動に関する組織や機能を強化する。</p>	<p>学校HPの運用について、工芸・デザイン教育のもつ魅力や重要性などを、工芸高校に関心をもつ中学生やその保護者等に適時適切に発信できるよう、校内体制の整備を行う。</p> <p>① ホームページ委員会が組織として管理できる制度と体制を整備する。</p> <p>② SNSを活用した情報発信の可能性を費用対効果の観点から検討し一定の条件をクリアしたものを活用する。</p> <p>③ 動画配信や学校紹介コンテンツの活用など、新たな広報活動の在り方について検討を行い適宜実施する。</p>	<p>◇学校HPの管理体制の構築 学校HPの管理体制を見直し、適時適切な更新による情報発信を積極的に展開する組織を構築する。 【数値目標】年間のHPとInstagram、Twitterの更新回数200回以上とし、効果的な活用を促進する。</p>